



六ヶ所村のための一枚の絵

ハワイエに展示している絵です。

旧東ドイツ出身の画家、ヨアヒム・ラウテンシュレーゲル氏が、1996年に、六ヶ所村との友好のために来日、滞在し描いたものです。

解 説

この風景画は、青と緑が主な色調をなして太平洋の長く狭い入り江と向かい合う六ヶ所村の新しく造られた地域「尾駮レイクタウン」を描いている。

この絵の前景は、一群の葦によって左右に分けられている。しかし、この構成上の要素は、画面を上下に分かつ横の線に対抗して、つり合いをとるアクセントになっているが、その上ある意味では古い六ヶ所村とその新地域とを分けると同時に結びつけるシンボルともなっている。

つまり、一方は明るい地平線の前で、他方は流れゆく暗い雲の下で。これは新しい時代の始まりである。

この絵は、メランコリックな静けさを湛え、色彩の中での青の階調は日常と異なった遠い距離を造り出して、現実をおとぎ話のような絵画の世界へ高め、新たな目で見ると我々を刺激する。

この絵の孤高な静けさを見る者を、街とその生活環境についての様々な独自の省察へと誘う。

この絵は、まずはその首尾一貫した色彩性によって装飾的な機能を表現すべきものとされているが、それも拘らず、そこに実現したものは単なる写生ではない。

異国的な風景に巡り会って、世界のはるかな地点を歩き回っての様々な印象—ヨーロッパ人の視点からの—それによってこの絵の思想への入り口を見つけたことになる。

この絵は、友好都市ヴァーレンと遠い遥かな六ヶ所村との距離を少なくとも想念の上で縮めようとする試みである。